

公立大学法人横浜市立大学の第3期中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する各委員評価一覧

S(4): 中期計画を上回って達成している。または達成の難易度が高い計画を順調に達成している。 A(3): 中期計画を順調に達成している。
B(2): 中期計画を十分には達成できていない C評価(1): 中期計画をほとんど達成していない。

令和2年度 年度計画(項目)	頁	法人自己評価	委員会評価(案)	委員評価	コメント
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	10	A	順調に進んでいると認められる	A	新学部創設等による教育研究体制の活性化、領域横断的連携の強化、研究力の向上等、十分評価されるべき状況にある。
				A	コロナ禍への対応をしながらも、教育研究の質の向上をめざして様々な取り組みがなされていることに敬意を表する。
				A	教育に関する取組み、ならびに研究の推進に関する取組みのいずれについても中期目標を順調に達成できている。従って、「I」も十分に評価できる。
				A	
				A	
I-1 教育に関する取組	10	A	—	A	新学部創設等による教育体制の充実、学生支援の充実等により、学生満足度も高く、着実に教育の充実が図られている。
				A	学部再編後、着実に成果を挙げている。今後は、ポストコロナをみすえた上での領域横断教育・研究体制の充実に向けた努力を期待する。
				A	データサイエンス学部の創設など、時代の要請を受けた教育体制の構築について時宜を逸することなくなされている。最近ではコロナ禍において学生への支援も着実に進められている。
				A	データサイエンス学部の高評価実績。領域横断教育、研究の具体的実施。デジタル化推進、オンライン授業、ハイブリッド環境の具体的整備。
				A	これからの社会のニーズに即した新しい学部編成と研究科の設置においては教員の確保やカリキュラムの構築も試行錯誤があったと思うが、概ね順調な運営状況が学生満足度からも伺える。今後も社会のニーズに即した充実したカリキュラムを期待する。
I-1-(1) 全学的な取組	10	A	—		
I-1-(2) 学部教育に関する取組	15				アクティブラーニング実施科目は増えているが、今後は、この質保証が重要な課題となる。
I-1-(3) 大学院教育に関する取組	18				各研究科の特徴を生かした研究推進のための施策や、人材育成をさらに進めてほしい。
I-1-(4) 学生支援に関する取組	21				社会人教育は今後ますます社会のニーズが高まる領域と考えられ、サテライトキャンパスやオンライン/ハイブリッド授業のシステム等を活用し、社会人が履修しやすい環境整備とカリキュラムの充実を期待する。
I-2 研究の推進に関する取組	22	A	—	A	インパクトのある研究成果の発出など研究力の向上がみられる。
				S	国際学術論文数、科研費採択件数等も目標を大きく上回り、研究推進の取り組みの成果は順調に上がっている。今後は、若手研究者、女性研究者支援の体制作りを期待する。
				S	先端医学研究センターを中心に「橋渡し」研究が活発に行われている。また、新型コロナウイルス感染症における抗原検査について社会実装に至り、検査キットが販売されるなど、いわゆる実学の分野での成果が著しい。
I-2-(1) 研究の推進に関する取組	22	A	—	A	学生への一時金支給、相談窓口設置、留学生支援。コロナ拡大の中、当初の進捗をクリアと評価。
I-2-(2) 研究実施体制等の整備に関する取組	25				学長裁量事業で国際学術誌への論文投稿料を支援するなどの取り組みを評価する。若手・女性研究者向け支援体制について具体的な施策を作ることが課題。
II 地域貢献に関する取組	27	A	順調に進んでいると認められる	A	学生ボランティア活動の進展、横浜市のシンクタンク機能の具現化などの努力が認められる。
				A	地域志向科目を必修化とし、ボランティア派遣数も当初の目標を上回り、学生教育上の効果は上がっている。今後は、大学の知的資源を市民に還元するという立場での取り組みをさらに進めることを期待する。
				S	学生への教育実践がそのまま横浜市への地域貢献と繋がっている。加えて、横浜市のシンクタンクとして大学が大きな機能を担ってきたことも高く評価できる。
				A	サテライトキャンパス設置、コーディネーター配置等評価。
III 国際化に関する取組	31	A	順調に進んでいると認められる	A	エクステンション講座の充実、生涯学習の推進という観点からも有益である。オンライン開催との併用により受講者の物理的ハードルが下がるとメリットもあり、さまざまな形態での学びの機会が提供できることはさらなる地域貢献にもつながると考える。
				A	着実な努力が認められる。
				A	国際総合科学部再編に合わせて作られた「2年次第2クォーター期間への必修科目未配置」によって留学しやすい環境を構築した事は高く評価できる。一方で、海外からの留学生を増やす体制作りも進んでおり、海外協定校数も着実に増えている。
				A	留学生の受け入れを含めて国際交流に熱心に当たっている。コロナ禍においても諸々の工夫により積極的な活動を維持している。
IV 附属2病院(附属病院及び附属市民総合医療センター)に関する目標を達成するための取組	37	A	順調に進んでいると認められる	A	着実に推進している。コロナ禍でもむしろ新たな施策アイデアが出ている点。
				A	留学だけでなくオンラインの国際交流プログラムも充実させることで、学生が多様な国際交流の機会を選択できることを期待したい。
				A	2病院に求められる医療機能の充実と発揮について、十分な努力が認められる。
				A	大学病院・高度急性期病院としての役割を十分に果たしてきた。2病院間の機能連携も進んでいるが、今後さらなる連携強化を期待する。
				A	以下の1~6がAの評価であり、これらをまとめた「IV」についてもAと評価できる。
IV-1 医療分野・医療提供等に関する取組	37	A	—	A	市民のラストリゾートとしての機能を維持しつつ、災害時医療への対応、コロナ禍での医療提供等、医療スタッフの高いモチベーションと使命感が十分に発揮されていると大いに評価する。
				A	がん医療、救急医療、災害時医療等の各般に亘り、病院機能を十分発揮している。
				A	コロナ禍への対応をしながらも、ベストの医療提供をすることに努めた事がわかる。
				A	附属2病院は大学病院として高度な医療を担い、周辺の一般医療機関との円滑な連携を行っている。医療機器の高度化にも充分に対応している。新型コロナウイルス感染症への対応も重篤な患者を受け入れて地域で求められる役割を果たしている。
IV-2 医療人材の育成等に関する取組	46	A	—	A	初期臨床研修医マッチング100%達成など着実に努力している。
				A	医師の養成だけでなく、事務職員の育成、女性医療スタッフの働く環境整備など種々の施策を打ってきた。今後も病院で働く教職員の連携によるチーム医療の推進に向けて進んでもらいたい。
				A	医師、看護師、薬剤師ら医療職のみならず、事務職員などにも豊かなキャリアパスを描くことができるような人材育成の取り組みがある。研修医のマッチングをみても大きな期待がもたれており十分にその期待に応えていることが理解できる。
IV-3 地域医療に関する取組	51	A	—	A	地域医療機関との連携強化など地域医療の充実にも十分取り組んでいる。
				A	附属2病院と地域の医療機関との連携を深める施策を、さらに進めてほしい。一方で、市民向け医療講座など、広報活動を強化し、市大病院のブランド力向上を図るのも重要。
				A	地域包括ケアシステムに乗せるべき患者が今後増加することに照らして、本システムの要ともなる地域密着型の中病院との連携が益々重要となる。そのような状況において、病病、病診、看々の各連携を活発に行っていることは高く評価できる。
				A	
				A	

令和2年度 年度計画(項目)		頁	法人 自己 評価	委員会 評価(案)	委員 評価	コメント
IV-4 先進的医療・研究に関する取組	54	A	—		A	高度・先進医療の充実に積極的に努めている。
					A	先進医療推進センターによる研究シーズ探索は重要な取り組みである。附属2病院と医学部の連携をさらに進めるべき。
					A	この面では従来から大学としての力を十分に発揮して順調な成果をあげてきたところである。
					A	
					A	
IV-5 医療安全・病院経営に関する取組	59	A	—		A	患者本位の医療提供体制の充実のため、セカンドオピニオン外来の開始、待ち時間や患者動線の改善などに積極的に取り組んでいる。
					A	患者のサポートを厚くするための施策、病床の効率的運用の推進等の取り組みを評価する。見通しとして挙げている、若手主体の「経営戦略室」を設置し、経営幹部による「経営戦略会議」と双方向で連携できる体制を作るのは、様々な問題解決に有効と考え、大いに期待できる。
					A	患者からの相談体制の充実、患者を中心とする医療の強化、病院長によるガバナンスの強化など、過去における負ともいうべき経験を踏まえた大きな取組みが、医療安全や病院経営において実践されている。
					A	
					A	
V 法人の経営に関する目標を達成するための取組	71	A	順調に進んでいると認められる		A	業務運営・財務状況の改善充実に積極的に取り組んでいると認められる。
					A	横浜市との緊密な連携のもとに病院経営が行われ、大学の積極的な寄附・基金体制の構築も進んでいる。
					A	2病院の方向性が議論され、大学、行政双方で整備構想案が策定されたことは大きな進捗。コンプライアンスの維持推進。100周年に向けた寄付活動の開始等、落ち着いた当初方針に基づいたガバナンスの展開がなされており、コロナ禍でもより結果が図られており大いに評価したい。
					A	
					A	
V-1 業務運営の改善に関する取組	71	A	—		A	学内の意思疎通の確保に努めつつ、ガバナンスの充実、研究不正防止等の倫理教育、防災・危機体制への備え、各般に亘る業務運営改善に取り組んでいる。
					A	様々な取り組みを行っている事を評価する。理事長・学長のガバナンス強化として、法人サイドの「経営方針会議」の議事録を学内で公開・周知することは有益。
					A	コンプライアンスの推進、ガバナンスの強化、そのことを実践できる良質な人材育成といった諸課題において中期目標を達成していると評価することができる。新型コロナウイルス感染症の蔓延においても多大な工夫によって乗り切っている。
					B	個人情報の取り扱いやメール誤送信事案についての適切な対応は取られていると考えられるが、今後もより一層教職員の意識向上と研修体制の継続を期待する。
V-1(1)コンプライアンス推進及びガバナンス機能強化等運営の改善に関する取組	71					
V-1(2)人材育成・人事制度に関する取組	74				教職協働を進めるうえで「職員のキャリア形成支援」は大変重要。ダイバーシティ推進も重要であり、女性管理職や障害者雇用も重要な課題となる。	
V-1(3)大学の発展に向けた基盤整備に関する取組	76				キャンパスマスタープラン策定を目的とする検討委員会の設置は重要。	
V-1(4)情報の発信に関する取組	79				特に高校生に向けては、SNSやオンラインでのオープンな情報発信は効果的と思われる。コロナ禍におけるオンラインによる学校紹介と合わせてぜひ今後も有効な広告ツールとして活用されたい。	
V-2 財務内容の改善に関する取組	80	A	—		A	自己収入の拡充や管理経費の削減などにより、黒字基調を実現している。
					A	外部資金の獲得に努め、寄附活動の強化も進めている。今後は、大学ブランド力の向上をめざす広報活動に傾注してほしい。
					A	外部からの資金の調達、寄附活動、効率的な運営といった諸々において着実に成果をあげている。また、コロナ禍にあつて、誠に厳しい医療活動に当たった結果、自治体からの財政上の支援が叶い、附属2病院にとっては大きなインパクトとなった。
					A	
					A	
V-2(1)運営交付金・貸付金に関する取組	80					
V-2(2)自己収入の拡充に関する取組	80					
V-2(3)経営の効率化に関する取組	81					
VI 自己点検及び評価に関する目標を達成するための取組	83	A	順調に進んでいると認められる		A	誠実に取り組んでいると認められる。
					A	大学機関認証評価受審にむけて、自己点検結果の学内審議に力を入れている。また、法人評価委員会による評価結果を公表している事も重要。
					A	外部からの評価を積極的に活用し、事業の進捗や達成状況について判断している。
					A	
					A	

総合コメント		新学部の新設や学部改組等により更なる発展の礎を築き、教育・研究・診療等の全般に亘り着実に成果を出している。
		様々な取り組みや施策が着実に成果を上げていることから、学長をトップとする教学マネジメント体制がうまく機能していることが伺える。新型コロナウイルス感染症への対応は今後も引き続きことが予想され、さらにまた、ポストコロナの大学教育研究については、これまでの施策の変更を余儀なくされる事も予想される。それらへの対応を十分に考慮しながら、第3期後半の業務を遂行し、第4期へ向けた方針策定準備をしていただきたい。今後の大きな方針としては、大学においては特にDX推進はさけては通れないものと考えられるため、これに向けて問題を抽出しながら全学的に進めてもらいたい。
		横浜市に所在し、横浜市が運営する大学という基本を十分に認識しながら多くの事業に粛々と当たっておられることが理解できる。新型コロナウイルス感染症については高度な医療機関としての責務を果たし、また検査キットの社会実装を成し遂げるなど、大きな成果をあげている。大学としての発展が大いに期待される。
		急速な少子高齢化が進む中、学部編成をはじめとする教育機関としてのカリキュラムの見直し、受験生への広報活動、また医療機関としての経営の効率化や医療人材の育成を年々着々と進めてこられたことを高く評価させていただきたい。コロナ禍によりDXが半強制的に推進され、試練ともなっているがこれをぜひプラスととらえて、コロナ終息後も学生の利便性向上や教職員のコミュニケーションツールとして、また多様な受講者のニーズにこたえるためのツールとして活用できるものは継続活用してもらいたい。